

クローズアップ 20

今、自分にできること、
大切にしていること



さいたま市立春野小学校
教諭
西 山 学

体育主任を11年間、その後教務主任を拝命して4年目である。いつも受ける際に、その重責のため自分にできるのかと自問自答しながら受けた。

しかし、その仕事をしていて自分のためにも勉強になることが多く、「きっと、この仕事が任されたのは、もっと修業をしなさい。」という意味があると思えるようになってきた。

1 学校を好きになる

赴任した学校を好きにならなければ、よい教育などできないと思う。その赴任した学校のため、児童のため、今自

分ができることは何かと常に考えるようにしている。新しい学校へ赴任すると「こういうよい所がある。」と常に感心して、その学校が好きになってしまう。

2 学校全体にかかわる仕事の楽しさ

体育主任や教務主任をしていて大変と思う傍ら、自分の仕事がたくさんの児童や教職員の役に立っていると実感できる瞬間がうれしい。そう感じられる言葉を児童や教職員からかけられると、また次の仕事の意欲が湧いてくる。今では、たくさんの人へ、自分が励ましの声をかけるよう努力している。

3 教育課程から爪楊枝まで

教務主任の仕事は、教育計画の立案等がその職務の中心である。その実務は、多種多様で学校全体に気を配らなければならない。日々の日課、行事、会議から接待の爪楊枝に至るまで気を配るようにしている。

しかし、一人の力は微々たるもので、如何に教職員で協力してできるかを最も大切にしている。

4 仕事の効率化

「費用対効果」とも関係しているが、限られた時間の中で如何に効率よく仕事ができるか環境を整えることも教務主任としての重要な役割だと思う。

(1) O A 機器の活用

各学校に設置されている O A 機器を上手に使いこなす。印刷機でのプログラム印刷やファックスや電話の短縮機能等、登録すれば便利な機能を活用できるようにする。

(2) 情報の共有化

全職員が必要なものは教務が作成する。緊急連絡網や学級会計報告、時間割表など各担任で作成するものについては、教務が作成して、紙媒体と職員室のパソコンに保管して、だれでも使えるようにする。教育課程や学年だより、少年自然の教室等の学年ごとの行事、校務分掌の資料等もホルダーを作成し保管するようにしている。

5 何でも屋

教務主任には、ほとんどの教職員から色々な相談がくる。校務分掌や学級での仕事から備品や消耗品の有無、機械の故障まで、その内容は様々である。すぐに対応して解決することが大切である。

6 新しい情報の発信源

文科省やさいたま市の新しい情報等にできるだけ精通し、必要な情報や新聞の報道等を日報の裏などに載せている。

7 おわりに

学校は管理職と教職員という歯車が組み合わさった時計に似ている。その時計がうまく動くようにする潤滑油が教務であると考え、名前のごとく学んでいる日々である。

(にしやま まなぶ)